WASON
HQ
1104
J74+

THE WOMAN'S MAGAZINE.

明治二十年九月十七日刊行

毎土曜日發兌
一冊正價五錢
府內無郵送税

女學雜誌

第七十六號

東京 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 76. SEPTEMBER 16TH, 1887.

EDITORIAL:— On the Girl's School: No. I.

LEADING ARTICLES:—Duties of a Woman, by Rev. Mr. Y. Hiraiwa; Woman's Culture by Mary Holterook (Concluded).

MISCELLANIES:—Three Princesses of "King Lear": No. IV; Mothers of Great Men; Japanese Literature: No. VI. (The Rules of Grammer), by Mr. H. Suzuki; Economy of Time.

CRITICAL NOTICES:—A New Novel: "Ukigumo by Mr. Tsubouchi.

BIOGRAPHIES:—Mrs. Fry (Concluded).

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

ADVERTISEMENTS.

第七十六號

●社説　女學校の論

●論説　婦人の職業（平岩愃保君述）○女子の三育 第二（女敎師ホンブルック氏）

●叢話　三人の姫（第四）○和文學講義（鈴木弘恭君述）○母親の感化○時の經濟（櫻田ゆかり）

●批評　浮雲の褒貶第二回（石橋忍月）

●佳傳　フライ夫人の傳（第三回）

●寄書　春の歌（司馬こう）○幼稚園保傅の資格 英文（龜山てい）

●新報　十六件

●特別廣告

●廣告

○笑ひ草（氷り附た猫）

○アメリカ、ニーヨルクの或る家に金庫屋の妻君二人集りて種〻と物語せり終りに至りて互に己れの家にて製造する金庫の功能を誇り居たりしが甲の妻君得意顔に云ふよう。我が家の金庫は先年チカゴの火災に三日三夜火の中にあり鎮火の後ち行きて見れば外部は眞赤に燒け居れり先熱氣の全くさむるを挨ちて戸を開らけば出火の折り餘りにいそぎし爲め一匹の猫をしめ込みたりそのおりもおほ箱のうちにて心地よく眠り居りしが戸を開く音に目を覺まし直ちに飛び出でたりいかに君の製造品にさるためしあるや如何と乙の妻君これを聞て負けぬ顔して。實にさる事もありつらん先年ボストンの出火に我家にて製造せる金庫は七日七夜火中にあり鎮火の後ち其熱氣全くさむるに又七日七夜を經たるのち戸を開らけば一匹の猫ありその猫は如何せしと思はるゝぞ「矢張表へ飛び出せしか「否々中にて全く氷り附て動かざりし我家の弗箱は御身の家の製造より遙かに勝れ居るありと云ひしとか、自尊と云ふ事は決して此金庫屋の妻君のみに非ざるなり。

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌第七十六號
明治二十年九月十七日

●社説

○女學校の論

（第一）新に設立する女學校の事

近年女子教育の事大に世人の注意する所と爲り之を輕忽に致すまじき所以は今まや殆んど日本全國民の爲に承知さるゝ所と爲れり聖代の德澤洽ねく行き渡つて女性に此の幸福を與ふるに至る眞とに感謝すべきものあり。此を以て父兄は女大學を架上塵深き間だに埋め置いて先づ其孃を文明の學校に送らんとし、孃等は庭訓今川の何物たるを知らずして只だ專ら英文佛語を我國の文章言語の如く使用せんとして勉強す、左ればこれ等双方の望に應じて世に女學校を設くるもの實に夥しき程あり一二年前は京濱間に名を知られたる女學校と云はゞ先づ五本の指を屈伸して凡そ二回の勞を爲さば則はち悉く擧げ盡し得たるとあるが今日は吾人が平生耳にするもの計りにても京濱の兩所に於て四十餘校はあるべし而して京大坂神戸を初めとして所〻の港、都、城下に至れば瘦せたりと雖も女學校一つは是非ともに設け置くやの模樣あり女學の隆盛乍ちにして今日の如く相成らんとは實に豫想の外にてありしこと也。扨て當今斯くも多く女學校の設立を見て殆んど案外の景況として驚く所なるに右女學校は大抵皆な生徒滿員と爲れるのみか其中ちにも稍や世間に知られたるもの、類ひは日に入學の申込人を謝絶するに殆んど煩はしきを覺ゆると云へば思ふに今日既に成立する所の女學校にては尙ほ世上の望に應ずるに不足なるもの歟左らば向後なほ〳〵多くの女學校の設立を見るを得べきかと察せられて益す斯の學の隆盛を祝せざるべからず。

凡そ世の士君子が躬ら奮つて女學校を設け人の子を預りて信切に教育の事を執らんとせらる其の厚意は中〻尋常人の考へ及ふまじきものあれば吾人は總躰の女流に代り平生此類の人に鳴謝して止まざる所のもの也又當今の父兄が數百年間の習慣を破りて其子に文明の學を教へんとせらるゝ事及び年來家の外には曾て出歩いたることもなき女生が自ら奮發して學校内に寄宿せらるゝ如き共に眞に感佩すへきものあるが故に之も亦た吾人が平生女學の上よりして大に賛成の言を呈し切て多少の勵にもあれかしと切望する所のものなり、然るに世に尤も笑ふべきは流行と云へることにて此上更に笑ふべきは流行を

趣ふて狂人の如く走る所の人あり故に流行は猶ほ魚釣の如く流行を趣ふ所の人は猶ほ魚釣の後に立つて忙然鼻水を垂るゝ所の見物の如しと云へるは甚だ面白き評と云ふべし、密かに思ふに當今數多ある女學生の中には唯只だ流行あればとて事理を辨ぜず自身の才質をも顧みずして徒らに洋書洋語を頭腦の中に詰込まんとするの愚を爲すものにあるまじきや此邊篤と思案すべきものなり、然れども此れ倘ほ恕すべし彼の只だ流行に連れて前後の計畫もなく乍ちにして女學校を設け乍ちにして失敗失策せんとするものあるを見れば第一女學の爲に慷歎の至に堪へず第二其當人の爲に考へて尤も氣の毒に堪へざるものあるなり。

抑も教育の事たるや其責任甚だ重し植木屋が一本の梅を養ふに數年の經驗を要し百性が米麥を作るに代々の手練を大切とするを思はゞ茲に人間の子を養ふて之を一と通りの人物に作り上げんとには固より數多の智識經驗及び謹慎を要するものと知るべし。特に男子を教育するとは不完全ながらも我國に數百年間の經驗あり近く二十年來に舶來したる西洋の智識もあれば何如に不謹慎の教育家なりとも先づ大なる害を引起さずして漸く其責の一分を盡し得るやの趣ありと雖も彼の女子教育の事に至ては日本開闢以來今日を以て最初とするのみか大抵の男子は未だ曾て女子と親密の交際をなしたるとなきが故に亦固より女子に特別なる習慣氣質及び發達の模様等あるを知らず殆んど寸前悉く暗黒なる間をさぐるが如く倘ほ切めては西洋に於て論窮する女子教育法の何物たるかをも辨知するとすらなく輕忽にも身を提げて女學校管理の大任に當らんとせらるゝ其勇は嘉すべく其厚意は謝すべしと雖も人間の爲には眞に遺憾千萬の事と云はざるを得ず。然れ共士君子が榮擧にも自ら奮發して此大任に當らるゝものは或は世人が之を非難する如く實に利益上の目論見ありて然るものか吾人は決して之を信ずる者にあらずと雖も實際萬一にも斯る希望を以て教育の事に任ぜんとする者あらんには其心立の甚だ卑劣なるを悪と共に亦た其考への尤も至ざるとを憫まざる可らず、思ふに當今文學上の營業に於て先つ利益の尤も少きものを何ぞと問はゞ恐らく新聞雜誌出版と教育との二つに越るものはあらざるべし然るに万一にも金錢上の利益を得んと欲して此等の業を執んとせば最初局外に在て望み見たる空想は直ちに徒らとなり筆を取て一二號を出版する時既に後悔し學校を開いて一二ヶ月を經ざる内に先づ經濟の立行ざるを恨むならん、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

特に女學校の教育ハ入費を要すると莫大にして尋常の教育と同樣に見るべきものにあらず例へば音樂、繪畫、裁縫、編物、女禮もしくは香茶、生花、割烹、料理法、の如き凡そ男子の生徒を教育するに必要ある科目の外に更に幾多の藝術を教ゆると必要あるを以て之が爲に餘分の費用を消すると亦少なからず、之れを以て當今外國の方〻が管理せらるゝ女學校に於ては年に少くとも數千圓の損あり其他多少世に知られたる女學校は大抵維持の爲めに特別の資金あるか若しくは無給の女教師役員ありて始めて漸く相應の教育を施こし得るが如し、然るに今ま此等特別の維持金もなく又教師役員を悉く商賣上の約束を以て雇ひ置き而も其上に尙ほ之れより利益を収めんと欲す殆んど底なきの網を以て魚一パイを漁せんとするに似たり愚も亦甚たしからずや、左らば世の士君子にしてかゝる不覺悟を以て卒然かの大任に當らるゝの筈なきは明らかなりたゞたゞ吾人が密に想像する所のものは當今女子教育流行の折に際し又女學生非常に增加して殆んど其入るの門に乏しきが如き有樣あるに當り其景況を觀ては平生の義氣禁ずるあたはず大に慷慨奮起して遂に自から其責に任ぜらるゝとと相成たるものと思はる、故に其志は謝せざる可らず其勇は感佩せざる可らずと雖も其人元來女子教育の事に緣故なき以上は斯る人物を徒らに其の不適當の地に置くと國家經濟の上に取て少なからざるの損亡あるが故に此際平素女子教育を以て專任とする人々は更らに大に努力して此等士君子の心身を安んぜしむるとを勉めざるべからざるあり。

此故に吾人は女學校の日に增加し亦た其日々に增加せんとするを見て以て女學の進步著しきとを認め固より之を祝して止まざるものと雖も然れども吾人はたゞ女學校增加の事を以て直ちに吾が喜びと爲すものにあらず、反つて其の日に徒らに數を增さんよりは寧ろ從來既に設けある女學校が或は合併し或は規模を取廣け更に彌よ完全の教育を施こし、凡そ玆に教師たるものは眞に女子教育の事を知るもの也凡そ玆に入り安んじて勉學するものは眞に女學を勉强するもの也と云ふに至り、彼學校の基礎甚だ固くして失敗の憂なく其教則亦た甚だ備つて失策の心配なく而して女生徒は業を卒る迄で此に寄宿通學して其校の感化を受け彼の水草を逐ふて原野を漂泊するが如く月に學校を轉ぜざるを得ざる如き掛念を要せざるに至らんと眞に切望に堪へざる也。

"Standing with reluctant feet where the brook and river meet."

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●論說

○婦人の職掌（其一）

平岩愃保　演舌
佃　龍雄　筆記

私は東京に永く居りませんで田舍から參た者で御座いますから東京は何の位まで文明が進み開化が行渡る樣になりたるか知れませんから皆樣の前に於て所見を述べますにも或は淺近にして聞くに足らぬ事を述るかは知れぬが矯風會のお招ぎになりて演舌する榮を得たるは私の面目でありますから聊か卑見を縷陳致さうと存じます

勿論私の演舌を聽かうと思召すは矯風會の婦人方でありますから其婦人に申上る積りで私の演舌を拵へました故に二階にお出なさる堂々たる紳士方にはお聞きなさるに足らんか知れん又此中には折助とか籠擔の樣な者はなく皆東京の紳士方で(ノーノーヒヤヒヤ)ありますから辨士を輕蔑したり演舌の妨げなどは致す氣遣ひは無いと存じますから其積りで演べます(謹聽)

矯風會は婦人の品位を高尙にするが目的と申しますが私も婦人の權を伸べ是まで永く男子に奪はれた所の權利を恢復せんとするの一人でありまして何卒世の中の爲め男女共に力を戮せ國の爲めに働らく樣にしたいとの宿論であります彼の車を見ましても兩輪の作用は平均して居りますに若し之を一方少なく致したならば必ず其車は滑らかに往來を走るとは出きまいと思ひます男子方は己れ獨りで此世の中を進んと思はるゝかは知らねど蓋し自惚れ過ぎた事で決して左樣の者ではありません婦人の品位を高むるには種々方法もある事でありませうが今一種類の方法を謂へば第一に精神を高尙にする事が必用と思ひます是まで婦人を敎育するには柔和に爲れ卑屈に爲れ優柔に爲れと男子が我儘を言ふたのでありますから此より後に精神を十分に致すのが大切です然し精神ばかりでは往かん學術も大切です精神も立ち學術が出來ても男子に依らなければ一身の致し方がないと云ふ樣では矢張折角の精神も挫けますから此精神を高尙にし此學術を脩め此職業を拵へ三者並び立てば婦人の獨立も望むべく婦人の品位を高めるとも出き樣と思ひます然も私は此點に向て直接に論じませんで外部の點より意見を吐く積りであります

一家の內に良法を拵へましたならば自然世間婦人の品位と云ふ者は高まると私は存じます家が良くなれば國も良くなり家が改良しますれば國も改良する道理です家も國も其大小だ

けのことと思ひます今一家を以て一國に比し我政躰に較べて見ますれば諸政百僚を統べまする所謂總理大臣なる者は孰か則ち其家の主人夫たるべき人でありまする總理大臣を輔けて諸省の事務を取扱ふは則ち其妻たる者の責任です私惟ふに妻たる者は少なくも大臣たるの職三つを兼ねて居ると思ふ今此三省の職掌に就て漸々お斷し致し矯風會員諸君の御意見を伺ひたく存じます

妻の職掌とすべきは何か第一大藏大臣第二外務大臣第三文部大臣此三省の職務は妻の責任とすべきであらうと存じます是より三省の職務に附て述べます

第一たる大藏大臣の職掌とは何を謂ふか家に在りて金錢の出納は一切妻の担任すべき者です夫は外に出で職業を執り若干の金を得れば悉く其妻に托すべきでありますから其出納を詳かにすべきは妻たるの職分です金錢上の事は夫婦の間と雖ども不快を感ずることがありますから十分明白に毎月帳簿に記載し總理大臣たる夫に見せ其滿足を得せしめなければならぬです斯く致せば自然夫の信用を増すのですが或人は既に費したる者を帳簿に記載するは無益である費金は再び還る譯ではないと申されたが私の考は是とは違ふのです如何にして今月は斯く出費多かりしか如何なる所に拂渡せしかを念ひ翌月の計畫を立て此は無益なりし彼は多きに過ぎたりと回想し一家の經濟を施しますには是非帳簿に據らなければなりますまい失ふたる金は再び還りませんが參考として後日の費を省くことは出きます又人々共に疾病や火災抔は免るゝことの出きぬ者であるが其際に臨で借財抔を致しまするは大なる耻辱と私は思ひます世の中は何うにでもする事が出きる抔と申さるゝ人もあるが此等は誠に獨立の精神に乏しく否到底獨立することが出きぬと斷言しても宜しき位の者です金錢程人を詐らしめ又人を卑屈ならしむる者はありません此等を能く承知して病などの起りても差閊なき樣心懸け置くことも妻たる者の職務であります

次に家の粧飾です日本家屋の一大欠典とも謂ふべき者は快樂（チヤフル子ス）と云ふ者が更らにありません唐紙も障子も白ひ天井も亦白ひ元來目と云ふ者は一色を視て居れば疲れるので眼をして歡ばしむることは出きません點燈しますにも用をさへ辨ずれば夫れで澤山だと云ふ樣な風ですが少し疊の敷物とか壁とか障子とかに注意しますれば家に入ると何處となく快樂を感じ歡ばしき心地が致します燈火の事抔は別して衛生上

にも關係を有し精神の發達にも影響を及ぼしますから注意は先づ事要の事です小兒が內に居るを樂まずして外にのみ出んとするは必竟快樂が家の中に籠らざるが故です此を以て大藏大臣たる者は金錢上の出納及び家の装飾方に於て最も注意を要することと存じます(喝采)

第二外務大臣の職掌があると云ふは則ち親戚との交際でありませす實に此等は忽かせにすべからざる事にて夫は此親戚に疎く彼親戚には親しきに過ぎて居るとか諸事に注意したる上時としては夫に代り親戚を訪ふこともあるべきは外交官の職任です近隣に如何なる人が住み名は何と云ふか知らぬ抔と謂ふは妻たるの職を盡したる者と云ふことは出きません夫の朋友と交際するにも公平を主とすると恰も親戚と同じにせねばならん又客の來る時には夫のみ主人となりて妻が出ることは誠に少ない殆ど客來は下婢の職にのみ歸する樣ですが此等は更に家の內を司りて居るのではありません素より茶を出し煙草盆を出すとは下女の職とするならば自分は客に對して其心を散らさぬ樣務めて其歡心を求め此家を訪ふ時は自然快よいとか樂しいとか云ふ樣に致さなければならん饗應の事の如きも妻たる者が主人とならなければなりません最も酒を出したり肴を取寄せて飲酒の爲めに大切なる時間を失ふ樣なことは今後自然に滅する事と存じます職務の大切なると時間の大事なるを知らずして徒らに日中飲酒抔を爲すは開化の時代にはある可らざる事です(喝采)左すれば饗應するには其時を撰み其機を見計らはなければならん且其時に饗應の主人となる者は孰か即ち妻たる者です何ぜならば會計を擔任するは妻でありますから招待の人員より百事の出納は其職任です故に勢ひ此が主人公とならなければならん

外交官たるの職務は敢て他人に對するのみではない充分夫に對するの責任を負はなければなりません先づ手近く申せば髪を亂す事も衣服の不躰裁なるも夫に對しての無禮であります外出する時は如何にと云ふに買物なり遊歩なりに出る時は殊更に容貌を飾るのです(同感)先頃の新聞に見へましたが印度の一婦人は其夫に待する時は頻りに容貌に注意すれども外出する時は何も搆ひませんから英國の婦人は之に向てあなたは家に在る時何故箇樣に奇麗にして居るかと問ひましたら其返辭にあなたは又誰の爲めに容貌を装ひますか私は他人の爲めに身を飾ることは好みませんと答へました實に肝要の夫の前は不躰裁の装をして外に出る時は衣服を着換髪を櫛る杯とは

譯の分らぬ話です(喝采)然し世の中の事ハ道理のみを以て推すとハ出來ませんが少し此邊にも注意を加へませんと遂に夫をして已を厭ハしむるに至ります總理大臣に厭はれて非職を命ぜられては大變です(ヒヤ〳〵)夫を慰め夫を歡ばしむるを以て日々の職分としなければ夫が外出して家に歸るも更に歡バしきとが有りません左すれば其家齊ひ和する譯には往きません(喝采)

日本の風として夫妻は喜憂を與にすると是は誠に宜しき事ですが夫喜びあれは妻の喜ぶべきは勿論として若し夫に憂ある時に妻も傍より眉を顰めましたならば夫をして一層の憂苦を增さしむる事と存じます故に此際に當ては勉めて夫の憂を消し苦を輕くする事に注意せずばならん彼マンテンルーテルが改革を勉めました折に終日精神を勞しまして家に歸れば其妻の歡ばしき顏色に接し其慰を受けて能く其力を盡す事が出きたが一朝是まて辛苦せし事は水泡と歸するに當り大に落膽して獨り書室に入り飲食を斷ち氣を閉ひで居りました其時妻は如何にしたら宜しからんと漸く工夫を凝らし黑の喪服を着て書室に至り荐りに其戸を叩きました故にルーテルは其室に伴ひましたが喪服を着て居りますから驚いた死せし人にてもあるか喪式が有るにやと問ひました故妻は答へて其處所ではない神樣が死にましたからあなたと共に之を送らうと思ふと申しますから「そんな馬鹿な事はない神樣が死ぬ樣なとは有ものか」「左樣ですか神樣は死ぬ樣な事はありませんか神樣が死ぬに何故あなたは其樣に落膽なさるゝか神樣さへ此世に在らば不幸は更に憂べきでない」と此一言の爲めにルーテルは遂に其の事業を仕遂げたと申すが實に此通りです(喝采)又彼のビーコンスヒールドの名を擧ぐるに至らしめしも同じく妻君の力だと申す事です候の妻は常に國會に往き更に外は見ずに只其夫の爲めに歡ばしき顏色を爲して居たとの事です或時馬車より下りて戸を閉づる時に過ちて妻の脂を摺め碎きましたが妻は之を以て更に意としない議論終結とあり歸宅の上ハンケチーフを解きて其指を見ましたれば夥しき血でありしと云ふが此等は總て外交官たる妻が最も注意すべきの點であらうと思ひます(未完)

○女子の三育

女教師　ホルブルック述

三稔前御國を去て本國へ歸る折シナインドダンジヤ等の國を通り其國々に立寄りて其國の有樣を見るに人民は皆人の靈を神とし或は偶像を祭り或は禽獸蟲魚を神とし魔術を行ひて空

しき事を爲し眞心を暗まし誠の光を見ざるを以て其國々大に貧窮にして人民も多く病氣に苦しみ天命を全ふする事能はざる者の多きを聞き甚だ悲歎に堪ざる處でありました是は皆偶像邪神に事へる結果でありまする夫より進んでイングランドの國に足を踏み其國の有樣を見ますると前に事變りて田畠も開けて人民富學校に病院に訓育院にと其搆へ實に美麗を極め且つ文學も盛に開け智識を開達する道も十分備りて居ます此の如くシナインド等と其趣を異にして居まするは何等の原因と思召されますか他の理はありません只耶蘇教を信ずるに因て顯はるヽ結果で御座ります私が其國へ參りました善き折柄其國の女皇ビクトリヤが其夫死去せられた後其名を後世に傳んが爲に宮殿に續て一つの會堂を建築せられし其會堂を見しが其美はしき事言にも筆にも盡し難く就中最も驚く可き者は四方の壁に寶石を詰込てダビデゴリヤサムソンエスタ等の形を畫き一目して舊約の歴史分明に畫き有を見て感服に堪ざる處で御座りました如何とあれば其最も小さき一片にても一つ數圓の價を持つものあれば況ん哉此の如き舊約の歴史を畫くには數へ難き大金ある事は明白で有ります而して又ケ樣に寶を以て歴史を畫くに於ては聖書を貴ふ事の深きを顯す者と云はねばなりません其より同國博物館に至りて其内を見るに恰も寶庫とおぼしき程世界に在ゆる珍寶を充し且つ名高き人の手跡盡く集りて人々の智惠を開く道全く備り何一として愚なる物は御坐りません此の如く世に優りたる者集合したる其内にも人の最も貴ぶ者はフランスの名高き畫師奴隷と名くる人の畫きたる油繪にて是に何が畫けるかと申ますれば聖書の歴史にて則ちイスラエルの先導者モーセパロ王の前に進みし有樣或はピラトの妻眞人に諫言する圖又他には疲れたる者キリストに來り其重荷を下されん事を願ふ等の事にて此等か皆額に成りて博物舘の室内に掲げてありました斯く聖書の言を畫かせるにも最名高き畫師を撰び是を以て多くの寶より貴ぶを見ても如何に深く耶蘇教を愛する乎を目撃して感心の餘り涙にむせびました而して其額の中最も人々に感動を與へる者はキリストの足下に來りて重荷を取下されん事を願ふ有樣を畫きたる者なりき其重荷ある心配は如何なる事柄ある哉は一々述ぶるに時間もありませんが其一二を擧ますれば或る人羅馬の司配を受れども其壓政に忍び兼支配の下より免れんとして干戈を動かし其が爲に血を流して甚だ疲れたる有樣又他の者は子供を持てる女ありけるが今此世を去んとの場合に至れど

子を思ふ親心の最深きより子供を遺して已れの先つを大に心配して我子をキリストに預ける有様にてありけるが目を轉じて其上を見ればキリスト輝ける衣を着て手に十字架を持ち立て人を招ける其右を詠むれば大なる岩石ろびへ其傍に谷ありて其圖は如何にも生物の如にして一層感動を引起しました併し此額の歴史は今より千八百有餘年前の事なれども聖書に有る如く主は始も無く終りし無き神なれば此額に畫ける如く主ハ尚今までも重きを負へる人の心配を落して安心立命の思を與へ賜ふ故御集りの皆様擧て主にいらせられ重荷を取下されん事を希望致します。

扨只今迄は基督教の行ハるゝ國と行ハれざる國とを比較して其利益を述べ大に枝葉に流れましたから今より基督教は人々如何なる徳を與ふる者なるか例を擧て眞の教育の力ある事を御話申して此演説を終りましやう。

今より數稔前米國の或る所に大學校ありて其處より時々一人の生徒卒業して外國傳道に出る例ありしが其校内に某と云ふ年頃廿才位の熱心に神を信ずる婦人ありて彼自ら思ふ樣我ハ生れ乍らにして神を知り甚だ幸ある事なれども未だ神を知らざる者もあれば何卒己れ自ら犧牲となり神を知らざる人々の爲に働かんと志し晝夜長き年月神に祈り或ハ親族朋友に計りけれども各々遠國へ遣す事なれば贊成する者も有らざりし去れど同氏の心中暗に住る人民を救ふ心切なりければ母の悲歎も顧みず心の儘を語ひたれば母大に驚き先にも後にも無き獨り娘なれば如何に見ず知らずの遠國へ遣す事を得ん哉との答に娘は尚々歎願して神の爲に生命を投ち働かんとする心の奪可らざる事顯ハれたれば母如何はせんと工夫心配の折柄母忽然過越の事を思ひ出し其より直に娘に向て曰へる樣汝が今度外國傳道に熱心ある事は謂れある事ぞかし蓋は汝が幼き時大病に罹り其生命も危く見えし時我神に祈りて曰く神に何卒我娘の病を治し賜へ若し治し賜ふなればハナがサムエルを汝に捧し如く此娘の一生は汝の務を致させますと誓願したる事もあればとて直に娘の依頼を聞入れ神の爲に未だ開けざる印度國へ贈られたりとぞ此等ハ皆眞の教育を受成長したる母なればこそ目よりも愛する獨り娘にても神の爲には惜まで遣す事なれば何とぞ御國にも眞の教育ある三育盛に行ハれて此母と此娘の如き心を以て神に事る婦女子が多く與りますれハ假令此娘の如く遠國へいらつしやらずとも御國の中に有て大なる働きが出來得る事ハ期して待つ處故益々熱心神に事ふる婦女

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

子の起らん事を希望いたします。

叢話

○三人の姫（第四段）

老王は惡くしく〳〵と思へる姉の姫ゴチリルがレーガン姫と手を携へたるを見て驚くと一方ならず汝ぢはそも如何にして此所に來り此の老父の面を能く愧ぢとせで相見たるぞ、レーガン斯る不義者と伴れんは穢らはし其處へなたずやと憤ほるにレーガン姫騒ぎたる樣子もなく此は父上の相應しからぬことを仰さるゝものかな凡そ年老ひて思慮既に衰ろふれば何事も壯年の人に語らひて其の助を乞ひ玉ふこそ然るべきに父上たゞ我意をのみ言ひ張りて姉君の許を立ち出で玉ふなんぞ御心得違ひも事にこそ因れり夫れよりも御士の半ばを減じて五十人とし姉にあやまりて早く御歸りあれかしと言ふ老王殊の外に怒りわれ何として此の不義者の家に再び足を入れんや老ひたりと雖も朕が膝は倘ほ屈すべからず此儘汝が許に厄介と爲り亦た他へ行かんとの望みなしと打しほるればレーガン太たく顏ふくらし父上五十人の隨身にて倘ほ不足ありと云ひ玉へども此は全く無用の御奢りなり若し妾が家に御留まりあらんとならば更に其半をば減じ二十五人にして御滿足あれ其實夫れにてもまだ過たるやうに思はるゝものをと申す眞に惡くむべき不孝の言ひ分なりけり。

老王は仲の姫はヨモヤと思ひたりしに今ま更に一層の情なき答へに暫しあきれ果て斯てはまだ姉の方ぞ吾れに誠多きならんと思ひかへしわれ玆にたゞ二十五人の從者を連れて怒れにさすらはんよりは寧ろ其の倍數の士ひを將て汝の許に歸るに如かずゴチリルよ再び此の老父を伴ない行き玉ふや、と問はれて姉の姫いよ〳〵驕り此は父上の言葉とも思ひ申さず妾が家に御宿りの節は宮仕へ足輕など素より不相應に御かしづかせ奉まつれば其外に御自身の從者とては入用に候ふまじきを頑くなにも是非百人を伴なわんと言ひ張りて出で行き玉ひしならずや今ま妹が二十五人を附け申さんと云へるは倘ほ結構の事なり妾の考にては二十五人は愚ろか十人にても又た五人にても奢り過ぎたる事とこそ思へ中々五十人の士を連れたる厄介者に宿かし奉るべき場所は候はずと云ふ嗚呼此の二人は大英國を二分して其一を惠みたる恩人及び其身を世に育て上げて立派の姫と爲し玉ひたる眞の父に對したゞいよいよ不義の言ひ懸けを多くせんとて互ひに競ひ合へり此時むか

し老王に對し世に比ぶべきものなき程に愛し奉ると云へる舌の根は今ま將た何處にか在る、輕薄不義四つ裂にしても尙ほ足らじとは思はる。

凡そ世に尤もつらきは人のつれなきとあり然れど吾が尤も愛する所の人われにつらからば其情なきと一層なるが吾を何よりも愛し呉るゝと思ひたりし人の一朝にして輕薄ならんには其つらきと之に比すべきはあらざるべし、老王は餘まりの不義に心中フラ／＼と相成り激怒して大に罵り乍らさて何を云へるか自ら辨じがたき程に憤ほりさても／＼惡くむべき不幸者よわれ此の怨恨を報じて世に亦たとなき非常の困苦を汝等に思ひ知らせんイザ馬引け馬引けとわめき立てゝひらりと打ち乘り飛び出でたり此時雷鳴天をくづす如く暴雨しのを衝いて降りしきる然れど外に此の暴天氣に曝らされんは尙ほ内の惡鬼と同席するに勝さると思はれけん老王に引きかへ、彼の轟ろく音打つ雨の聲はきこゆるとも害なし斯る頑固の老人は早や出で行きて小言をきかせ玉ふなとわざわらひつ老王の出づると其が儘戶を固く鎖ざし先づ厄介人を追ひ拂へりと申さんばかり姉妹顏見合せて相笑みたり。

○母親の感化

日本にても西洋にても凡そ世に聞こえたる程の人物は大抵賢こき母親の育て方によりて出來たるものあり蓋し父親は多く外に出でゝ内に在ること少なく又た内に在りとても其子と親しく語り合ふとの甚だ稀なるものなれば自然其子の上に感化を及ぼすとも亦た多からざるものなれども母は始終家を守りて子を育て朝たより夕べに至るまで絕えず傍らに置て之を介抱するとなれば其感化の多く行はれんとは眞とに尤なるとなり故に古へより英雄の父に愚人の出來たる例は甚だ多けれども賢母にして其子の不才なりしとは未だ聞たるとなし。

因りて今ま西洋にて有名なる實例の多少を擧げて之を證せんとするに最早や本誌の上に於て述べたる分も多ければ此等は先づ大凡そにして其他を云ふべし故に彼のワシントンが其母の養育嚴重なりしに由りて平生正直よく己に克ち彼の七十餘戰の後ち終に米國の獨立を打立てたる大切業を爲し乍ら少かも之を誇るの念なく亦た之を以て己れの利益ともせず彼の公平自由なる共和政治の基ひを置て天下に二つとなき道德の國を定めたる如き、又は耶蘇敎の尊者中古へ道の正しきを主張して邪道の行はるゝを防ぎ千百年の後に至る迄で神の宮を淸くしたるセントアウガステンが初は驕慢自負にして人を輕ろ

しめ才を負んで世をあなどり自ら高しとして女色に陷れるなど眞に卑しむべき少年なりしみも係はらず賢母モニカが數年一日の如き敎へに依りて遂に大に悔改するに至れる如き、又は孟子年若うして左程に學に耽らず又甚はだ惡少年にそまり易うして好き行ひもあらざりしを孟母あまたゝび家を遷して友を擇み豚を殺ろして正しきを敎へ機を斷つて學をはげませしが如き、凡そ此等の著じるしき實例は佳傳の欄内に於て時々に精はしく物したるが如し讀者は定めて尙ほ記臆し玉ふなるべし。

偖て此外に著しきものを擧げんとには先づ第一にナポレヲンの事なりナポレヲンとは誰れも知れる如く西洋獨步の大英雄にて我國に申さば猶ほ豐大閤の如し初め卑賤の一島民なりしが次第に立登りて遂に全歐を席卷しフランス國の皇帝となれり元來殘忍の躰にて日比ろ親しめる近臣を欺き親愛かぎりなき妻を離緣し心のさむきと石の如くなりしにも係らず其母の敎への厚かりしとを思ひては心中にいかに熱して常に忘れがたかりしと云へり左れば曾てカムパン夫人と會話の時當今佛蘭西の國民を敎育せんに何者か尤も欠乏すと考へらるゝと問ひ夫人が只だ一言「母」なりと答へたるを聞て喜びにたへず然りと叫びこれぞ即ち新らしき敎育法の基ひを造るものなり夫人之より願くは佛國の爲めに賢母を出すとを勉め玉はれと言はれたるよし是れ必竟其母メール夫人の德を心に銘すると甚だ深かりしが故なるべし。次に英國に昔しクロムエルと云へる英傑ありき皇室威を弄あそびて民權をないがしろにし百性塗炭の苦にあひて家に平安なきに至れるを見て慨然として立ち僅づかの弱兵卒少さかのさび道具を以て堂々たる議院の軍兵にはむかひ遂に全勝を得て一大改革を奏したる所の人なるが歷史によつて之を見れば其父の名を聞くとなし只だ母なる夫人は自ら助くるの精神甚だつよくして如何なる艱苦に臨みあらゆる法方の絶えたる時も双の手あらん限りは能く獨立し得べしと安んじ平生よく自ら勞して貧しき間に數多の子を育てたる女丈夫なりしよしなり故にクロムエルが淸潔の心厚く忍耐の力つよく剛毅不屈の武張りたる勢あるうちに家人を愛するの情はなはだ優しくして心からの尤も淡泊なりし如きはよく其母の氣質を受けたるものと云へり。此外獨逸の詩人ゲーテと云へる有名の學者は其母が平生何物をも生かして活潑の意味を附し成べく其子の心を引立つるようにして育てたりしかば遂に那の如き有名の吟客となり、又た同樣の詩人キン

グスレーも其母が不斷景色を愛し詩を好み想像に富み面白みに感じ易くして此書の有樣に其子を感化せしめたれば遂に其詩才を發達することあり、女學者中第一のマダム、デ、スタルは母親の嚴格なる教育と非常の文才とに依りて終に生れ乍らの美質をいよ／＼磨きて十才すでに大家を驚かすの秀才とはなりたり。

左れば子供の賢愚才不才は一に母親の賢こきと否らざるとに由りて來るものと云ふも過言にはあらず故に今日女子を教育するは他日立派の妻賢こき母を出して以て遠く日本國民を悉く才子英雄にするの基とはなるなり凡そ其子を愛するものは先づ妻を擇むべし後來の日本國を憂ふるものは須からく女子を教育すべし女に學文させて之を善き方に導くは決して其方一人のみの爲にはあらざる也。

○批評

浮雲の褒貶　（二）

石橋忍月

高尚の著者は貶毀を受くるを以て却つて褒擧を受くるよりも有り難しと思ふ可し何となれば具眼者の貶毀は改良進歩を促し自己の氣附かざる瑕瑾を發見して後來を謹ましむればなり故に予は世人が著書を貶毀するに至つて千言万言を費し毫も餘す所なく其極罵詈に流るゝも猶ほ咎めざるなり然れども其貶毀不具眼者の貶毀にして相當の理由なければ默々に附する能はざるなり世人が浮雲を貶毀するを聞くに浮雲はしつこいと言ひきどり過ぎると言ひ規模狹小なりと言ひ言文一致の辭法に非ずと言ひ其貶毀三四にして止まらずと雖も間には失笑に堪えざる如き子供らしき評言ありて予も默々に附せんとするも能はざるなり故に先づ此子供らしき貶毀を駁して浮雲を辨護せんと欲す貶毀者曰く浮雲は脚色平凡意匠野鄙寓意もなく諷誡もなく一向面白からざる小說なりと成る程貶毀者の言夫れ或は然らん何となれば浮雲は平凡なる不完全なる人物を以つて主人公となし彼の近世專ら流行する政治小說一名英雄小說の如くナポレヲン、ワシントンも三舍を避くると言ふ可き文武兼備の俊傑が天下國家を經營するが如き愉快なる脚色に非らざればなり昨日下宿屋樓上に煎豆をかぢつて政を評し官を罵りたる貧措大が今日一蹴して國會議場に現はれ再蹴して大宰相となり終に某伯爵の令孃と赤繩を結ぶが如き目出度き夢物語に非らざればなり浮雲の著者が力を用ふる所は文章脚色意匠なぞの末技に在らずして小說の主眼たる人物に在り外觀の華美に在らずして裏面潜伏の狀態即ち性質意想の

眞を寫すに在り活潑高操の虛談に在らずして浮薄の情卑猥の俗を記するに在り難者の脚色平凡意匠野鄙なりと言ふハ浮雲の深慮を知らざる輕躁論なり焉んぞ知らん浮雲の妙ハ即ち其平凡野鄙なる所以にして平凡野鄙ハ即ち衆著書に卓絶する所以なるを又寓意諷誡を小説中に挿むハ其光彩を增すに相違なきも又之れ無しと言つて著書其物を非難するハ不可なり何となれば寓意諷誡ハ小説の首眼本色に非ざればなり凡そ小説中に寓意諷誡を挿むハ時事に感激するか或ハ世道を裨益せんとするか或ハ小説の材料に乏しき時不得已横道を通りて小説家のお茶を濁す窮策に出る者にして餘り賞む可き者に非ず況んや今日の世間ハ小説の材料綽々として餘裕あるも數多の小説家ハ棄てゝ顧みず否な小説の住家を發見し得ざるの時に於てをや何を苦んで横道を通るの窮策を須んや又況んや精緻なる觀察を費したる著書ハ讀む所見る所讀者其人の心得次第により寓意ともなり諷誡ともなるに於てをや誰れか此精緻の觀察に富める浮雲を指して寓意諷誡なしと言ふや。

浮雲ハ方今の社會風俗人情の實際を忌憚なく畫きたるものなり故に他の貶毀者ハ風俗の矯正思想の高尚を障するものなりとし其書を擯斥し併せて其著者をも擯斥せんとす嗚呼近世の批評家ハ現時の風俗人情及び交際社會を以て毫も非難す可き所なしとする乎强いて廉潔優美の人物を造つて俗人の歡心を得んと欲する乎否らざれバ現世を虛飾粉碎して暗々后世に誇らんと思惟する乎花ハ盛りに月の隈なきを見んと欲するハ人情なり世人が完全の人物爽快の脚色を欲するの親切心ハ嘉す可しと雖も然れども無辜の小説を驅つて時俗に阿るに至つてハ恕す可からざるなり凡そ小説社會の品位を尊卑する媒介物となるとならざるとハ一々讀者の取捨如何に在るのみ見て以つて矯風改俗の資となすハ利用の妙味を悟るもの讀んで以て誘冶勸淫の具となすハモルヒ子の毒藥たるを知つて其奇効あるを知らざる偏見者なり浮雲の著者如何に親切なりと雖も小説中に於てモルヒ子の用量まで指南するの餘暇ハ非ざる可し社會ハ猶ほ劇塲の如し著者ハ猶ほ俳優の如し其演劇の替り目脚色の如何に由りて著者ハ公家ともなり武家ともなり官員ともなり商人ともなり忠臣ともなり邪人ともなり盜賊ともなり車夫ともなり卑屈の男子ともなり劣情の女子ともなり遊蕩無氣力の艶冶郎ともなり媚を獻し恥を知らざる藝娼妓ともならざる可からず其著者の卑屈の男子となり劣情の女子となり又艶冶郎となり藝娼妓となりたるの故を以て世人が直に

著者其人を擯斥せんとするが如きハ予其所以を知らざるなり予ハ浮雲に對して數多の意見あつて發論す可きの事種々あるを以て斯るくだらぬ貶毀に向つて辨論するハ徒らに批評を冗長にするのみにして予の本意に非ずと雖も冷淡なる讀者不親切なる批評家に取てハあながち價値なきに非ざる可し

予ハ浮雲の著者に向つて感謝に堪さる所ハ著者が時俗に阿らざると江湖の非難を顧みざるの大膽に在り方今の人情風俗を虛飾粉稱せざるに在り好く人物の性質意想を寫すに在り不完全なる主人公不完全なる行爲を記するに在り之を要言すれば著者が好く小說の心を知に在り秩父庄司次郎重忠傾城阿古屋に言つて曰く「假令万人の譏りを受くるも君御一人の御心に叶ひなば御身の冥加惡しかるまじ」と浮雲の著者は小說の心を得たり小說若し神あらば應さに欣然一笑謝辭を呈す可し何ぞ必ずしも世俗の貶毀を問ふに及ばんや況や岩永殿の譴責は勿論水責め火責めの苦を受くるの御心配はなかる可し然れども斯く賞贊辨護のみにては御邊と吾と譯ある中なぞと思ふ輩もやあらん故に予は次號に於て不感服、不出來と自信するの點を擧げんと欲す予も中々の片意持者故窮問も亦た嚴重なり請ふ物柔かなる音曲位の取調べと思惟する勿れ　（未完）

○家政法（時間の經濟）

櫻田ゆかり述

婦人の世にあるや各々其目的を異にし其爲す所亦た差ありと雖も既に一家の妻となりたる上は其家の內政を司るの責任は何人と雖も得て免れ能はざる所なり然して其家を理するの事亦決して容易に非ざるなり我國の婦人の如き元來家政の何たるを知らず年少未だ經濟の術を知らず且て育兒の法を辨へざる者皆是なりこれらの人の爲す行爲を見るに平生は僅少なる金錢の出納に尤も意を用ゆるも僅少なる時間の經過に對して之れを惜しむの心無きが如しよしこれあるも實際に其時を利用するの人甚だ乏し西敎敎へて曰く吾人の神より附與されし時間は例令一分間といへども無益に消やす可き權利なく后ち悉く之を神前に計算せざるべからずと實に然り世の妻女となり家政を司る人にして時間の經濟を知らずして可ならんや。

今我等が毎日爲すべき事物の時間を分てば大抵左の如し

睡眠時間、飲食時間、生計を保護すべき時間、智力を開發すべき時間、運動及び遊戲時間、交際上の快樂を得べき時間、慈惠及び宗敎上の務めを成すべき時間、

一日の間に於て右七つの時間を用ふるに於てはこれよく其時を使ふの人なり然れども其時を用ふるはすべて一定の規律な

かるべからず睡眠の時間長きに失して智力を開發すべきの時を失ふは不可なり遊戯の時間長きに渉りて生計を理するの時を失するも悪しゝこれよく注意すべきなり。時間の經濟とは唯だよく時間を浪費せざるを云ふなり目的もなく方法もなく碌々として時の經過する其速なるを知らず靜坐雜談に興うじ袖手婢僕に事を委頼して知ざる者の如きこれ時の經濟上に取て尤も大なる罪人なり一家の主たるもの又尤も大なる責任を負ふ所の人にして僅少なる時間を消費するを以て意となさずよしこれを考ふるの人たりとも其時間を利用するの才なき者多きは深く悲まざるべからざるなり　（未完）

○和文學講義　（特別寄書）

第六回　詞辭用格

鈴木弘恭

今回よりハ兼ねて御約束の通り詞辭用格のことを示さんとすさて詞辭用格とハ詞ハことばなり辭ハてにをはなり詞と辭との用格のことなれども是を一口に云ハゞ用言の用格之用言とハ動詞のことなれバ即ち動詞の用格なりさて此の動詞の用法ハ文法中に於て尤も六ケ敷ものゝある事ハ略知りたまへるあるべし故に拙者も餘程注意して力めて言を平易にし解釋を細密にし初學の貴孃等にも十分に了解しやすからんやうにと工夫してこゝに御断申すなれども猶さとり難き所うたがハしと思ふ所ハ幾回にても質問したまへ貴孃等の心中に落ち入るまでハ御噺し申すことゝせん

因に云これまで先輩の説れたる書にハ大抵活用の例ハ一例を舉て示したるのみなれども拙者ハ成丈多く示さんとすればバ或ハ五六例或ハ七八例或ハ其上にも掲出さんとす然れども餘り繁雜にわたるの恐れあれば十例ぐらゐを以て限とすべし貴孃等その煩ハしきに倦怠し給ふなかれ

さて本邦の詞ハ西洋の如く八品詞或ハ十品詞などいふ區別ハなくてたゞ簡易に二品に別ちて古へより用ゐ來れり第一躰言第二用言是れなり

因に云近世に至りて日本文典といふ書數種出でたれども一として良書なし是れ强て西洋の文法に倣へるがゆゑ之夫れ國異なれバ風俗ことなり風俗異なれバ言語隨てことなるハ自然の理なり然るに彼の語と此の語と一々引合せんとするハ餘程六ケ敷ことなるべし加之現今の學士社會を通覽するに洋學に長じたるものハ和學に短なり和學に長じたる者ハ洋學に短なり如何ぞ完全なる良書の出來る理あらんや拙者も人まねに先般より友人坪井九馬三氏と謀り專ら彼の文法

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

に則とり十分に完全なるものを著作らんとして起稿したる新撰日本文典といふものあり未だ脱稿せざるに氏ハ俄かに歐洲に漫遊せられたりさて今その稿本を熟讀するにやはり我ながら完全とも思ハれざれバ到底當今の所でハ西洋の文法に倣ひたる日本文典ならバ良書を作るハ六ケ敷ことなりと斷言したるなり。

第一躰言とハ名詞のことなり第二用言とハ動詞のことなりされバ躰言なる名詞ハ大方は古今ともに其の名稱も變らず語尾の變化もなければ別段に此に示すにも及バざれども少云ハゞ四種に區別すべし第一有形名詞也則ち天地日月草木人獸鳥魚机筆硯紙の類何にても形躰あるものゝ名なり第二無形名詞也則ち忠孝節操德行成智虛實の類何にても形躰なきものゝ名なり第三固有名詞也則ち日本國東京富士山隅田川葛飾里源義經平重盛の類何にても地名人名特別の物名などの動かざる名なり第四普通名詞也則ち國京山川里草木家の類形躰の有無に關らず何にても普く通じたる物名なりさて此の固有名詞と普通名詞との區別ハたとへバ國京ハ普通名詞なれども日本國武藏國常陸國東京西京といふ時ハ固有名詞也山川里は普通名詞なれども富士山筑波山吉野山隅田川利根川荒川葛飾里今戸里宇治里などといふ時ハ固有名詞なり草木家は普通名詞なれども忍草忘草松木梅木杉木某家などゝいふ時ハみな固有名詞なり又妹尾太郎熊谷二郎鷲尾三郎佐々木四郎曾我五郎の類ハ皆固有名詞なれどもたゞ太郎二郎三郎四郎五郎をいふハ普通名詞之是等の類猶多しまた伊豫守義經能登守敎經武藏守師直相國淸盛大納言公任中納言行平の類もたゞ伊豫守能登守武藏守相國大納言中納言とのみいふ時ハ皆普通名詞なりすべて官名の類ハ皆然り此の外ハ準へて知るべし。

さて躰言ハ是等のたぐひなれバ細しく云ふにも及バざるべし故に躰言のことは既に貴孃等ハ皆御存知のことゝ假定して是を省きたるなれども今御約束の詞辭用格の話の前に一言申したるハ躰言用言の區別を判然と暗記して惑ひたまハぬやうよ念の爲め申置ことなり。

さて用言ハすべて動詞のことなれバ文にも歌にも尤も多く用ゐる言にて尤も品種多ければ尤も注意して能く了知るべしまづ此用言(即ち動詞)ハ舊より是を詞辭の二つに別てり今また是を細別すれバ詞に二品あり辭に四品ありてすべて六品あり則ち詞辭用格とハ此の六品の用格を詳細に說き明かすになり能く注意して左にいふを聞くべし。

詞に二品ありとハ第一作用詞あり第二形狀詞なり然して此の用格に至りてハ大概十種にてこと足れども是を完全ならしめんとするにハ更に四種を加へてすべて十四種用格とすべしその目ハ左の如し。

第一四段用格第二一段用格第三中二段用格第四下二段用格第五加行變格第六左行變格第七奈行變格第八良行四段一格此の八種を作用詞といふ然して良行四段一格あるものは用ゐやうに因りては形狀詞にもなると知るべし第九良行四段別格甲第十良行四段別格乙第十一くしき用格第十二しくしき用格第十三くしき一格第十四しくしき一格是なり然して第十一より第十四に至る四種を形狀詞といふなりさて又第九良行四段別格甲は作用詞に屬し第十良行四段別格乙は形狀詞に屬するものと知るべし。

因に云上に大概十種にてこと足れどもと云へるは第九良行四段別格甲第十良行四段別格乙第十三くしき一格第十四しくしき一格の四種を省きていふあり此の十種は本居宣長翁以來先哲の既に定めたる名稱にして語彙別記などにも揭たる十種活用とは是なり然れども此の十種にては完全あらざることを見出したるは我が師黒川眞頼翁にぞありけるをのれ翁と共に語格の誤謬を正し初學に便ならしめんとして友人三田葆光等と謀りて詞の栞打聽といふもの一冊を著せり遠からぬうち上梓すべし然ども此の打聽はいさゝか高尚にわたりたれバ先づ一通りこの講義を玩味してさて後に一閱するかた然るべからん。

此の用格をしめすには先づ五十音のことより說示すべし五十音とはあかさたなはまやらわの十をあいうえおかきくけことやらに竪に唱ふるを行といひあいうえおの五をあかさたなはまやらわいきしちにひみいりゐのとやうに横に唱ふるを列といふ則ち十行五列ある五十の文字はおの〳〵一音を有する故に五十音とはいふ然れども用格に運用するところの音はあいうえの四列に止まりておの列は與からざるなりしかるに加行變格に至りては則ちお列あるこの音も運用するは特別なるを以てこれを變格とはいふなり。

さて四段とはあ列い列う列え列の四段に運用するをいふ一段とはい列の一段に運用し中二段とはい列う列の二段に運用し下二段とはう列え列の二段に運用するをいふあり。

● 佳傳

○エリサベス、フライ夫人の傳（其三）

夫人は前に述ぶる如く日に牢獄の改良と女囚の教育とに力を盡して餘念あらざりしが其の四十五と云へる年すなはち西暦一千八百二十四年の比ろより多年過たる程に何事をも勉强ありたるの結果として追々に身躰に傷みを覺へらるゝこととなりたれば暫らく身を退いてブライトンの邊に住まわれたり、然るに其近邊に在る海岸防守番のようすを見てまた〳〵大に慨かるゝ所あり之を宜しき道に導びかずば國防の効能も遂に空しかるべしとて衰へたる身を起して此等の番所々々に聖書を讀ますることをつとめ熱心に其方法を盡されければ先づ其近邊に於ては夫人が望まるゝ通りとなれり然れど夫人は尚ほ之を足れりとせず更に世の有志者に說いて此業の爲に賛成を表せられんことを要されたれば聖書會社は聖書を寄附し雜書會社は雜書を寄附せり其上へ夫人が政府もしくは一己の私友あんどに勸告ありたる働らきにも因りて遂に各海岸防守番の番所にそれ〳〵基督教書類の書籍室を備へしむるに至りたりと云ふ。

夫人は亦た暇ま〳〵に聖書の句を抜抄して宜しき程の讀物を作り之を日々一節づゝ誦讀して年中斷へず眼に聖經の句を見せしむるようの工夫を思ひ起し今ま我國の聖書の友が發行したる掛物と同樣の趣向を以て一書を著し之を廣ろく配布して教の傳はらんことを祈られたり。

夫人は元來旅行を好み平常所々に遊ばれたることあるが其至る所に慈善と福音との種を遺して數多の善事業の基ひを置へられたり然れば其の異境の山水を觀らるゝは固より只だ明媚の好風景を愛するが故にあらず必竟人を思ふて世のあれさを救ひたしとの念つねに其足を進ませて所々の遠方にも至らせたるあらんか此故に華美驕奢を尊む佛蘭西の都に至り名族豪家に待せられて數度び遊樂の宴會に招かれても其折食事の際つねに世の中に貧苦する人々の有樣を語り又は聖書福音の傳はり行く景況を談じなどして同席の人々を能く慰め樂しまするが内に自づから慈善の空氣をして室内に流通せしめたり亦た貧賤上下の隔離ははだしくして貴ときは卑しきを見向もせざる獨逸の國に至られたる時も躬から其日記中に記し置かれたる如く「朝たには襤褸を着たる老翁と共にミンデンの街道を步み夕べには王朝の皇子皇女と同席したり」而も夫人が持前の種は此の雙方の席にまかれたることを知るべし。

夫人は斯く迄に社會公共の事に盡力し世に轟き渡る慈善の

大事業を爲し乍らも女が家政の事に注意するハ天の定めありと云ひて常に少さかも之を忽諸にせずよく夫に仕へ十一人の子供を育て妻とし母として申分なき職分を盡されたり夫人平生の言に云く女が家内の事を掌さどるは世の務めの中にて女の爲すべき最大最初の責任なりと然れば夫人自からの如く、公共の事業に盡力するは必しも一般の婦人が望むべき所にあらず之はたゞ特別にかゝる仕事を爲すべきやう神の命を身に受け得たる者のみが爲すべきとなりとて其の娘子又は世の女方が誰れ彼の區別なく公けの六かし事にたづさはらんとするをを太たく不可とされたり是れ女流方の尤も注意をして夫人に學ぶべき所なるべし。然れど人は自身の爲に盡し一家の爲に盡したるの後は必ず幾分の力を他人の爲に盡すべきものなればとて夫人は世の女方がたゞ〳〵自身の事のみを慮ばかりて余の事に毫も頓着なきを同様に不可とし尚ほすでに神より賜はりたる丈の力量は敢て之を秘くすとなく十分に之を使ひ用ひて世の爲に應分の功徳を奏すべしとは論ぜられぬ。

夫人は三人の姉妹に先き立れ愛親の朋友をも失ひ其外數多の困苦にあわれたれども毫しも其信仰を挫かるゝとなく艱難にあひていよ〳〵平和にたのしみを得られたりける嘗て病重くなれるとき獨り言して云はれたるは「我身は何の德もなく亦た何ものをも有たず貧しく助けなく且つ愍れなる裸かなれば自からは何如なる事をも爲し得ざれども主は全能にして全智なれば我が光となり我が生命となり我が喜びとなり我が永遠のさかえの望とはなる」と今まや晴に終らんとするとき夫人の愛娘枕邊に居寄りて舊約聖書イザヤの書を讀み「爾ぢの神エホバは爾の右の手を以て爾を執らへ爾に語つて懼るゝ勿れ我れ爾を助けんと云はん」との節に至れるとき夫人は莞爾として打笑まれけるが之れ即ち其の永眠の初めなりける。

●小說は余白なきに付此號に限り相ひ揭げず

●寄書

○春の歌及愛國の歌（其一）　西小川町　司馬こう

妾此夏徒然の余り獨乙書をひもとき侍りしに意に適ふたる詩ありけるまゝ三つ四つ譯し了ハんぬ其が中より取りて御笑草と爲すになむ、

春の歌

(1)空にはなびく青き雲　谷ハそめなす緑り色
可愛らしさの五月花　咲きも咲きたり鮮研と
日にまし變はる野の景色、

(2)九十の春光限りあり　花木をめずる諸人ハ
つどひ來りて今爰に　我大君の御惠みを
受けて樂み遊べかし、

The Qualifications of a Kindergartner.

(*Continued.*)

As to the amount of *general information*, which is desirable there is no limit: the more knowledge a person acquires of things, so much the more the will be able to import to others, and so much the better will she be fitted to undertake such a work, as the education of little children. Duintillian, one of the most famous theorists on education, among the Romans says, that the best teachers can teach small things the best. For example, see Fröebel who with the knowledge he possessed, ever thought himself imcompetent for his work. Very often the children attack us with their profound question, that excite our intellects, and we realize the wonderful depth of understanding there is in them.

Executive ability, thought and *tact* are necessary qualities. Tact sums up the other two: it is the ready power to appreciate and do what circumstances demand. This faculty apparently shows itself in the children at their blocks, when their intellects are roused to immediate action. Instructors should be richly furnished with this peculiar skill. And then one needs *method*, a method which requires ability on the part of the teacher, and the readiness to apply it on the part of the scholar. In acting up to our methods, we should when practicable, explain why they are pursued and what the advantages are.

Accompanying method there should be *rules*, but rules unless they are verified and found correct by proof, do not amount to much. Ratich says that all teaching should be according to the course of nature; should proceed from easy to difficult, and that we should teach every thing by experience, little by little.

Then study must be a pleasure; it is not good nor right to force a child and the teacher should do all in her power to make it so. By doing this, even a child that is indisposed to study, will come to a better disposition.

Most always the children are interested in what the teacher is interested in, and here we see in these, the great natural tendency to imitation. They are sure to follow and do as you do. To prove this, I will relate an instance that occured in our little Kindergarten—One of the teachers in going out of a room in haste, unintentionally banged the door behind her, and walked off unconscious of the effect produced upon those in the room. I happened to be there, and presently, a child took a slate that was handed to her, and placed it down with a *bang*. It was a purely innocent act, and I could only admonish the child not to do so again. We need therefore, to act *wisely* and *modestly*. We must be wise to know, when to praise and when to reprove; what emotions and feelings to quench and which to encourage and develop.

And now one word as to the highest office of the Kindergartner, that of *leading* her little immortals to know their immortal Father and rejoice in His love. Religion must be taught, not only from the Bible, but from Nature, for in it the child perceives easily the evidence of a Creator, both in outward objects and through itself. Education devoid of religion is groundless, for the fear of the Lord is the very beginning of wisdom. The *character* is an expression of the heart, and it must be *noble, fixed* and *patterned* after One who has left us an example.

We must labor with one aim, with the hope of a bright future for each child, not presuming that we are educating for the present, but for the future, which is engulfed in obscurity.

For our children and ourselves, let ns remember, that the grandest service in which we can engage, is the work given to us by God, and we can render it the best service, by doing it faithfully.

By Miss T. KAMEYAMA.

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●新報

○橫濱フェリス女學校　同校は秋季始業后教則を改正したる處多く特に今度試驗委員と云へるを設け基督教内にて婦世教育に心を用ゆる本邦の人々を乞ふて之を委頼し專ら其校の教課試業其外の事に付て意見を望むと云へり依て植村、小崎、稻垣、熊野、松山、石本、及弊社の岩本の七氏に請ふて之を委頼し大抵りの承諾を受たりと云ふ

○東京櫻井女學校　同校は今度いよ〳〵築地四十二番の女學校と氣脈を通ずることと相成り差當り上等の級は之を合して櫻井女學校内にて教授することし尙ほ同校内に新に高等科といへるを設け各女學校の卒業生徒をば更に教導せらるゝと聞及べり

○女生徒の謝狀　芝區白金の頌榮女學校にては生徒及び近傍の貴夫人達の爲め實吉安純、島田園海、加治木雄吉、津田仙の四氏が每月一回づゝ衛生演說をさるゝに付同校女生徒は此程右の四氏へ謝狀を贈りしと

○大日本私立婦人衛生會　今度麴町區三番町九番地に題名の如き會を設け每月一回宛集會し熟練の學士を招聘して先づ衣服の洗濯、食物の調理、住家の洒掃及び看病法、育兒法等の方法を講し尙之を筆記して雜誌をも發兌する由にて貴婦人令孃方にも贊成多しと云ふ

○京都高等女學校　同校にては去る一日より日本裁縫科の生徒をも總て椅子卓机に改めて座業を廢し幾一疊に二人宛立業せしめしが從來と違ひ第一生徒の席順も亂れず受持教員の區別も判然し充分監督も行屆き万事整頓として餘程都合よき趣きなり又此程來普通科並ひに裁縫科とも新入校生五十名宛を募集し普通科は去る十二日より試驗を始めて入校せし裁縫科は去る一日廿五名の入校を許し余は十五日過に漸く入學せしめしよし又本年よりは期後に入學を申込むも一切採用せざる趣きなり

○京都婦人共勵會　は來る廿四日を以て京都倶樂部樓上に於て初回を開かるゝよし發起人は池田たつ、小川ひさ、奧まつ、竹内小章、中島春野、村田壽、浮田すゑ、上崎きせ、島田まさ、森田もと、の諸氏にて其目的は專ら舊來の弊風を矯正し婦人の品位を高むるにあり會員は諸事を虛飾を去り質素を旨とし日常の職務を怠らざるを勉むる等實に肝要の規約を設けられたり事務所は當分四橋小橋東入村田榮次郎氏の宅と定められたり

○遺愛女學校　函館元町の遺愛女學校は夏期休業中の處去る十四日より開校せし由にて校長ハンプトン女史は此程歸米せし故其代理として米夫人コーバック氏が來校しヒウエット女史と共に教授の任を取られ校則等にも改正を加へたりと又同授は從來生徒八十余名なりしが本期より新入學志願者ありて殆んど百名に達するよし

○女子部設立の儀　長野縣師範學校にては來年度より女子部を置き女教員を養成する見込にて其費用を同議案に組込み縣會に附する由議員中には兼て女子教育に熱心なる人少からされば此儀は容易に議會を通過するなるべしと同地より通信

○靜岡英和女學校　靜岡屋形町なる英學校主藤波甚助氏の主唱にて設立になりし靜岡英和女學校は其女教員(加奈太人)も東京まで來着せしに付き來月上旬より同町靜岡私立病院内を借受け開校する手筈なりと

○神戸女子手藝學校　同校へ漸次申込人多く自然手狹なれば過日同校の一部へ移轉せし神戸英語學會も之が爲め謝絕たる程なり又同校にては近日より婦人に關する諸學科の講義を開く筈にて先づ一週一度位の見込なりと又其講師には梅若誠太郞、神中正雄、矢田績、小磯吉人、原田助、アッキンソンの諸氏に托囑する筈なりと云ふ

○山口女學校　山口縣にては大日本教育會山口支會の有志者が發起人となり同會附屬として今度山口女學校なる者を設立せしが愈々諸事整頓したれば去る十五日入校生徒の試驗を行ひ引續き授業を始めしよし

○清揚女學校　前橋曲輪町本願寺境内へ元群馬縣女學校の取締たりし鷹澤鳴尾女史が校主なり今度題名の如き學校を設けしが授業時間は午前八時より午後六時迄にて英學を主とし其他婦女に適する學術技藝等を教授ずる由

●海外女事

○學位　米國にて女學校中第一とも云へるバッサル大學より嚮にジョンスホプキンス大學の學生と爲りたるクリスチン、ラッド、フランクリン夫人へ大博士の學位を贈りたり

○カムブリッチ大學の學位　英國のカムブリッヂの大學にては二つの分科大學ありて女生の入學を許すと前號にも記したる如くれなど之は只だ其の入學を許すのみにて卒業后たとひ試業に及第するとも男子同樣の學位を附與することを許さゞりしが近來は追々に之を不可とする議論喧しくなり殊に近比ラムセー孃の男生徒を壓倒したる著名の出來事ありてより(前號にあり)滿客中には是非とも女子に同等の學位を與へしむるように建議すべしと主張し當今其建議文を作り贊成者の捺印を募ると云へり然るに今日迄に數多之を贊成して同意の印を押したるものゝある中にラボック、ガルトンの如き學士も加はり居れりと云へり

○クレブランド孃　米國大統領の令妹たる同孃は此頃に至り更にニウョークに於る某女學校の副監事となられたる由なれども其の著作に從事あらんとは元の如しと云ふ

○工女の同盟　西洋にて女の職工は隨分に多きこととなるが其の賃銀の男子に比して は格外に廉價なるより女子中に之を慨ひて多年その弊を矯めんとするもの多きこと なるが中にもパターソン夫人と云へるは太たく之を憂ひて十三年前英國にて工女保護同盟會(プロテクチーブエンド、プロビデント、レーギウ)と云へるを起し爾來りの會の名譽書記なりしが去年遂に卒したれば會員等亦た大に之を歎きりの記念の爲にとて苦樂部會塲の如き者を作り一層さかんに會の事務を擧んとすと云へり

特別廣告

東京婦人矯風會々員姓名宿所表（第六回）

芝區の部（前號に續く）

源助町十三番地　小林みつ
愛宕下町二丁目三番地　辻　婦留
同町三丁目一番地　大倉せん
三田四丁目二十六番地　井上すゑ
櫻川町二番地　杉本佐登志

南豐島郡の部

千駄ヶ谷村四十番地　南部　隈
中澁谷村字大和田三百六十二番地　水谷ます

各府縣の部

神奈川縣橫濱の部

橫濱百七十八番地フェリス女學校　島田かし
同　平野はま
同　青山いく
同　富田[illegible]
同　佐藤て[illegible]
同　濱口なみ
同　星野幸
同　松田きみ
同基督女學校　櫻川りん
同　伊井はま
同　岡田
同　山田小梅
同　中澤やす
同海岸教會　山中　茂

同橫須賀の部

相州橫須賀　壹岐けい
同　仁木くま
同浦賀大ヶ谷町　加藤ゐさ
同橫須賀製鐵所　湖猪なつ
同橫須賀港町二十八番地　伊藤わか
同同町三十二番地　濱口なを

特

廣告

●明治女學校生徒募集幷びに新築落成廣告

本校漸次隆盛の域に進み從來の校舍非常の狹隘と相成り候に付き今般高燥の地を卜して校舍を新築し去る十二日を以て落成せりよつて新入生徒の入學を許しかつ寄宿生を募る精細の規則は附て承知あるべし〇入學志願者及び規則問合せの方は飯田町二丁目五十番地木村ふゑ方明治女學校假事務所へ來翰あるべし〇規則書御望みの御方は新橋日吉町女學雜誌社宛てにて郵券二錢送らるれば直ちに送附すべし

東京麴町區飯田町三丁目三十二番地

明治女學校

藤尾錄郎君著

實地應用家計簿記法例題

正價金拾八錢郵送料金拾錢

曩日家計簿記法（正價四十錢郵稅十六錢）の著あるや江湖之を便とし今日既に大に行はるゝを得たるは本懷に堪へず而して家を成せる紳士婦人方にありては朝夕の出納細大之が應用を試むるの機會ならざるなく之を實習するの材料に乏しからずと雖も未だ事に實際に當らざる令孃娘子等に在ては如何なる事を記入す可きやと其趣向に當惑し玉ふ方も甚だ多しと見へ著者に就て記入法の教授を求めらるゝもの頻々なり是れ著者が其教授せしまゝを筆記して更に此例題を著はし其標準を世に示さんとせし所以なりされば此書や內政に當らるゝ婦人方にはさまで要なしと雖も世の幼婦少女殊に女學校の生徒等にして家計簿記を學習せんとする者には實に缺く可らざるの要具と云ふ可し

發兌　東京々橋區彌左衞門町　**經濟雜誌社**

（賣捌）東京小林。丸善。博聞社。集成社。叢書閣。中央堂。澤屋（）大坂梅原。丸善〇京都大黑屋。集光堂〇橫濱丸善（）其他書肆

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

いらつめ

第三號目次○社説●女子の地位を進むるに付ての注意○姫鏡●風琴調の一節○月報○家政●家内貯金の用意●家内の開取のこと●如何にして食物を購はんか○雜錄●およわんだわく傳(新躰詩)色紙短冊書方のこと○論説●高等師範學校助教諭上野銀子君高等女學校幹事飯島晋君●批評○學藝●飯釜の蓋●攝水を以て驪を洗ふ○毎月第二土曜日發兌定價一冊八錢半年分前金四十五錢一ヶ年分前金八拾錢見本ニ限り一錢郵劵九葉

發行所　東京本郷區湯島天神町一丁目　成美社

大賣捌所　同神田雉子町　團々社支店

○鈴木弘恭大人著述○小中村清矩大人評

改正增補 **文法口授** 全一冊●一名和文獨案内　定價十八錢　郵税四錢

此書は文章家なる鈴木大人が多年諸學校の生徒に和作文を授業せられしを筆記したるものにて嚢に出版したる所大に諸校の賞用を得たれば尚亦今般大人に乞ひ改正增補して古人の文章數十篇を卷尾に付し或は雅文を俗文に譯し或は漢文を和文に譯したる作例をも擧げたり然れば啻和文のみならず漢文を學ぶ人の和文を漢文に譯するにも大に益あるべし且女學校などに於て和文を學ばんとする生徒諸君の爲めには此に過たる良書なかるべし

●右文法口授は學校教科用の書籍に適當也とて發兌后一週日を經ざるに既でに成立學舍女子部及び頌榮女學校並に明治女學校長榮女塾等の教科書となりたり

○鈴木弘恭君講述○山村苑作君筆記

つれぐ草講義　定價十二錢　郵税四錢　第一號

右は鈴木弘恭君の講義ありたるを山村君の筆記せられたるものにして其解釋の綿密なる一本を机上に備ふる時は五里の霧中を出でゝ霽晴朗々たるの天色を見る心地す四方の貴娘諸子請ふ續々購讀あらん事を

東京新橋日吉町八番地　**女學雜誌社**

發兌

九月。三日　十日　十七日　廿四日
十月。一日　八日　十五日　廿二日　廿九日
十一月。五日　十二日　十九日　廿六日
十二月。三日　十日　十七日　廿四日　三十一日

定價

一冊。五錢　郵税。一錢　(但府內無郵税)
十冊。四十八錢　郵税。十錢　(同前)
半年分　一圓十七錢　府外は　一圓四十三錢
一年分　二圓卅四錢　府外は　二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を揭ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を揭載するに右雜誌十部の注文を要し以上半頁分每に十部增の割合と定む

一行　一回　前金拾錢　(廿七字詰)
同　三回以上　一割引
同　六回以上　二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町擴々堂○東京芝西久保櫻川町萬春堂○東京神田區雉子町團々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新銀町良明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本郷區元富士町盛春堂○同本郷區春木町二丁目解明堂○東京本郷四丁目文壽堂○横濱住吉町角田屋貞○京都四條通小橋東へ入澤集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町○虎與號○江州彥根西內大工町新々堂○相州小田原綠町石壽堂○上州高崎田町煥乎堂○勢州松坂家里初枝

發行所　本局　東京京橋區日吉町八番地　**女學雜誌社**

持主兼編輯　嚴本善治

印刷　森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8 HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tôkyô, Japan.